

1年間の棚卸(たなおろし)をしてみよう

第9期『耕人塾』も第6回(閉塾式)を残すのみとなりました。今年度はコロナ禍のために開塾式を延期し、回数も減らして実施せざるを得ませんでした。が、教学委員の発想と企画によって新しい発見ができた1年でもありました。福沢諭吉の「学問のすゝめ」の14編に「心事の棚卸」(下記に意識)があります。1年を締めくくるにあたり、『耕人塾』全体の棚卸(在庫商品などを調査し評価すること)は最終号で書きますが、私自身の棚卸をしてみたいと思います。

人が生きている様子を見ていると、心で思っている以上に案外悪いことをし、心で思っている以上に案外愚かなことをし、心で計画しているよりも案外成功しないものである。また、人生を設計している人でも「生涯の内、または十年の内にこれを成す」という人は多いが「三年の内、一年の内」という人はやや少なく、「一月の内、今日のうちに」という人はまれである。期限を長く決めて、今やるべきことをやらないで事業に成功した人を私は知らない。少なくとも一年または一か月の終わりに、何を成して何ができなかったのかを棚卸する必要がある。「生まれてから今日に至るまで自分は何事を成してきたか、今は何事ができるか、今後何事をすべきか」と、自らわが身を点検することが大切である。

30年ほど前にこの本に出合ってから自分の生活を見直すようになりました。現在は手帳や日記で何ができたかをチェックし、大晦日にはこれまでの1年間で何することができたかを棚卸をするようにしています。今回は『耕人塾』実践事項について、私の棚卸をしてみたいと思います。

①「あいさつ」：出会った人や隣近所の人に自分から挨拶するように心がけていますが、タイミングを外したり、相手に届かなかったりしたことが何度もあります。反省する点も多く、自己評価は60点です。目標は初任の頃お世話になった下宿のお母さんのあいさつです。

②「清掃」：家での役割分担はトイレ掃除と掃除機をかけることです。毎週やるようにしていますが、毎日トイレ掃除をしている人と比べると足元にも及びません。丁寧さも足りないので自己評価は50点です。来年度はレベルを上げて具体的な目標を立てたいと思います。

③「ゴミ拾い」：昨年に引き続き、1年に1万個を目標に朝の散歩をしながらゴミ拾いをするにしました。11/8で10,210個なので、目標を達成することができました。週1,2回の散歩ですが、日の出前の空気は清々しく、爽やかな気分ができたので自己評価は90点です。来年はもっと楽しくゴミ拾いをする方法を工夫したいと思います。

棚卸をしてみると福沢諭吉が言っているように、案外達成していないことに気づかされます。「今は何事ができるか、今後何事をすべきか」諭吉の言葉をかみしめてみませんか。

「勇気をもってヒーローに」(10/21「河北春秋」から)

「3年前の秋、いじめ問題を解決しようと『BE A HERO』というプロジェクトが始まった。ヒーローとはいじめを退治する人というより、正しい行動をとれる人のこと。いじめをなくすヒーローに君たちがなろう〜と小中学生に「勇気をもってヒーローに」と呼び掛けたのがプロ野球の岩隈久志選手だ。このプロジェクトの発起人となって、各地の学校で講演している。ヘルプ(助け合い)、エンパシー(共感)、リスペクト(尊重)、オープンマインド(広い心)。HEROはこれらの4つの言葉の頭文字である。岩隈選手は『メジャーリーグにはこのすべてが備わっていた』と語っている。『メジャーリーグには多くの国から選手が集まり、言葉が違う中みんなが助け合い、広い心で共感し、お互いリスペクトしている。おかげで自分の力を思いっきり発揮できる』。米球界での経験がいじめをなくすために役立つと考えた。」

『耕人塾』でもHERO(助け合い、共感、尊重、広い心)を大切にしたいですね。